

位置図

昭和40年の新春を迎えてまだ日の浅い1月20日 松川地域で掘さく中の 3号井 がみごと噴出に成功したというニュースがもたらされた。まさにお年玉にふさわしい朗報である。

この3号井は 1号井(深度945m 蒸気量75トン/時) 2号井(深度1030m 蒸気量40トン/時)の成功に引き続き 上図で示したように 赤川 澄川の合流点より下流約80mの松川右岸で 昨年9月末から掘さく工事に入っていたのであるが 年の暮も迫った12月24日に 深度1207mで掘りどめとし 鉄管挿入 孔内洗滌などの作業を終えて1月4日以降放置されていたものである。

まだ正確な計量がなされていないが 蒸気量は ほぼ1号井と2号井の間ぐらいとのことであるから 多分50トン/時を割ることはあるまい。なお この3号井は噴出当初から 蒸気が乾いていて ほとんど熱水を伴わ

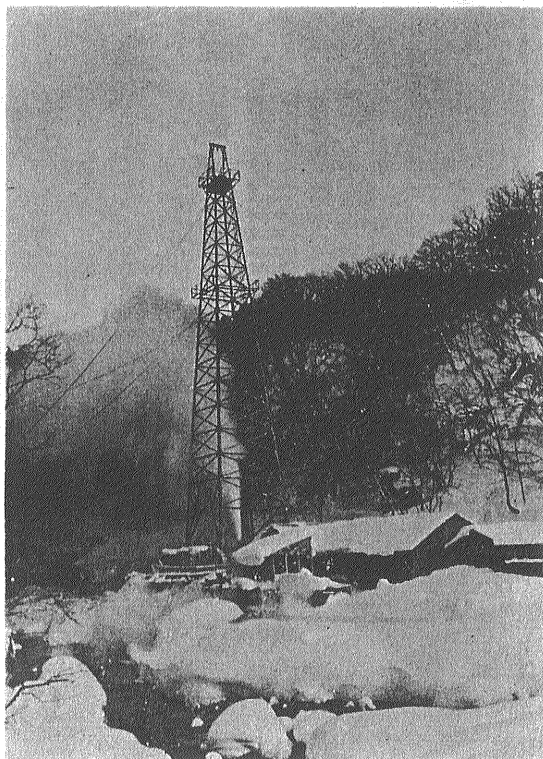
松川地域の地熱開発着々と進む ～3号井も成功す～

中村 久由

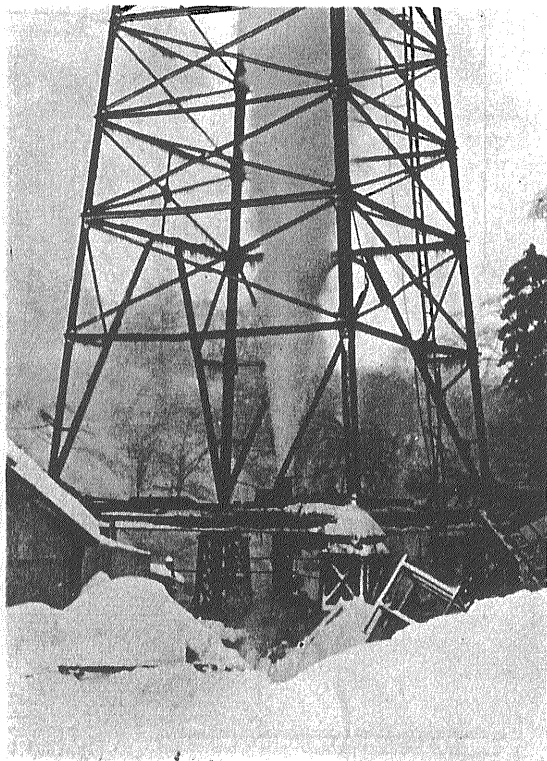
ないのが特長であるという。

いずれにしても これら3本の開発井から少なくとも150トン/時以上の蒸気量を得たことになり 目下計画中の 2万kW 発電の実現に一步近づいたとってさしつかえない。 近日中に掘さく開始予定の4号井の結果が遅くとも6月中にわかるはずであるにせよ 今からその成果が待たれるというものである。 いずれ各井戸についての調査資料を発表する機会があると思われるが これら3本のボーリングによって 松川地域の深部構造を解く手掛りが得られ 今後の開発ならびに探査方針にある程度のメドがついたとって過言でない。 と同時に 予期しなかった事がらが次々と現われ 今さらながら地熱開発のむずかしさと地熱探求の妙に いっそうの反省と奮起を促がされたことも事実である。

(地質部応用地質課)



松川地熱開発3号井



同 右